



インド福祉村協会 (IWVS)
<http://iwvs.web.infoseek.co.jp>
 現地 PM 加藤 伸也
 2008年11月20日発行 第8号
 JICA 草の根支援協力
 「保健衛生と人材育成」事業 実施中
 2007年9月～2010年8月

11月14日 金曜 定例の妊婦学校。



妊婦学校に小学生と高校生が参加してきました。勿論、妊娠している訳ではありません。「V字」の白いタスキが高校生で、隣の赤い服の人が先生です。先週、衛生教育で訪問した学校の生徒です。

もしかしたら、「モシラミ」の薬を貰いに来たついでに、妊婦学校の見学に来たのかもしれませんがね。

この高校生が将来看護師になって、病院に来てくれたらうれしいです。新聞に医師、看護師、検査技師を募集しましたが、一人も応募がありません。都会志向も強く、こんな田舎には来てくれない様です。

特に、妊婦学校は看護師を必要としています。

【地域医療の現状とアーナンダ病院】

20分かかる所に「地域保健センター」があります。

医師5人で患者数は150-200人です。(JICA調査)

このアーナンダ病院は医師1人で平均80-90人です。

患者も噂を聞き、遠く(50km)から来て、診察を受ける人もいます。

医師の熱意と日本からの支援で、病院は発展しています。

しかし、人材の確保は熱意だけでは解決が困難です。IWVSとしてもいろいろ検討の最中です。

JICA事業を通じ、地域の信頼はますます強まる事が予想できます。

それだけに、人材育成は地域医療、保健衛生を支える意味でも大きな事業です。

11月18日 インドJICAの「山田次長」が病院を訪問

以前から申し出がありましたが、やっと病院訪問が実現しました。Drも先週の土・日はデリー北部でカンファレンスがあり、帰りの列車も遅れ、月曜遅くに帰宅し、18日は患者数も100人を超えていました。

訪問も4時近くでしたから、Drもほぼ診察は終え、院内の紹介、教育ホールの案内等山田次長からの質疑応答にも精力的にこなしていました。

まだ、患者さんの診察も終わっていませんでしたので、診察終了後にDr居室にて懇談をしました。特に、人材の確保に話が集中し、JICAとしても検討したい旨の話も出ました。



11月19日 10月6日以来、朝少だけバリス(雨)が降りました。



実は、山田次長が来る前日に院内で「コブラ」が出たんですよ(^0_0^)。コブラがいるという話は聞いていましたが、遭遇した事はありませんでした。犬が騒がしく鳴いていたのでまた「サル」かと思っていました。

コブラでした (@_@;)。

Staffが穴を掘り、花を添え丁寧に葬りました。埋めた土の上にも花を添えていました。コブラも神に仕えるシモベとかで、一生懸命祈っていました。

前号でも書きましたが、仏教観に似て本当に無益な殺生はしていません。輪廻転生観をヒンディ教徒も持っているようです。<(_)>

